

よれば凡そ次のような作品が出品されたことがわかる。

川端玉章「後赤壁」「瀑布」「雨後山水」「女三の宮」、山名寛義「菊藤」「児島高德」、荒木寛畝「鶏」「豆州戸田真景」、天草神来「大阪夏陣」「雨中の竹」「鯉魚」「水邨」「曉霧」「田舎村婦」「舟遊」、本多天城「蓬萊山」「桜」、岡田秋嶺「秋景山水」、鷹田其石「日の出に霧中若松」「高士」「読経」「松林山水」、前波鶴年(寛次郎)「雨後の月」「箱根八景」「野犬」「梅林」「初春」「兆殿司」その他、高橋烏谷(勇)「雨中山水」、島田友春「張果老」、田中和一(春岱)「春の海」、山本光汀(昌)「夕陽」「聚雨」、有馬龍秀「春」「郊外」、高橋岱峯(来平)「社頭春色」「秋の雨」、豊岡東江(保太郎)「春郊」、渡辺吉太郎「春駒」、渡辺香涯「野趣」、結城素明「わか葉」、中村如等(端三)「秋景」、村崎雅章(政昶)「春駒」「兵衛佐局」、野口駿尾「猫」、西原雅風「西湖」、平井芳亭(富夫)「入相」「收穫」、藤井紫水(豊)「夏草」「母子」、田中桐山「源語櫛の巻図」

⑬ 彫塑会

十二月、本校彫刻科卒業生有志による彫塑会が結成された。塑造科設置を背景に、率先して彫刻革新の道を歩もうとする人々の集まりであった。その主旨と規則は『校友会雑誌』第二号に次のように記されている。

彫塑會主旨

藝苑の進運は今將に過度推移の時代〔渡〕にあり 舊様の典型漸く破れ

んとし因襲の弊風將た改めざるべからず 此時に方りて斬新正法の製作未分進運〔未だ十分カ〕に契合する者の出するなく嚴正純潔の會合尙斯界を提醒するに足るものを生ぜず 藝術に忠にして精進に志あるもの誰か之を嘆せざらんや 念ふにこれ天下の憂に先たちて憂ふるものにして卒先手をこの改進の事に着けんは固より冒難多難の業に屬す これその先進老境の諸家に待つべからざる所以なり 少壯氣銳の作家蓋ぞ共に力をこゝに致さざる 彫塑會はこの志に依りて成れるものなり 明治三十三年五月を期して列觀場を東臺に開き以てこの大業の第一着手となさむとす 彼の明黨比周の義に至りては絶へて存ずるところに非ず 亦彼の病弊の原となるべき形式の賞撰を行ふことなり〔レ〕 有爲の作家其れたゞ作品を出して世に示すに吝ならざれ

明治三十二年十二月一日

委員 渡邊 長男

石井徳千代

阿部 光治

山田 政治

青木 外吉

木保義太郎

新免教太郎

高村光太郎

細谷 三郎

堀川 鼎

展覽會假規則

第一條 明治三十三年五月十日より廿三日迄二週間上野公園五號

館北部三分の一に於て會員の新製品を陳列し公衆の觀覽に供す

第二條 本會の出品物は材料の何たるを問はず凡て立體的造形美術品に限るものとす

注意 器物の形をなしたるもの及び繪畫的に屬する片切彫其他最長經五寸以内の物は謝絶す

第三條 本會出品は開會三日前に目錄を添へ本會會場に送附すべし

右期限内に到達せざるものは陳列を許さず

但し發送後出品人の意志に由らざる事故の爲め延着せしものは此限にあらざ

第四條 出品物の遞送費は往復共出品者の自辨たること

出品物は賣品非賣品の區別を出品目錄に明記し賣品は價格を記入すべし

第六條 出品物は凡て目錄に照し預證を交附すべし

第七條 賣品の所望者あるときは賣價二割以上の證據金を取り約定證を交附し置き閉會後三日間内に受授の手續をなし代價は出品人に交附すべし

但賣却せし出品者は賣價の賣割を本會に寄附すべきものとす

第八條 開會中出品物は他に搬出するを許さず

第九條 出品物は開會中本會に於て力めて保護をなすべしと雖ども避くべからざる災害毀損は本會其責に任せざるべし

第十條 出品物は閉會後三日間以内に受取人を出すべし 否らざれば先拂を以て還附すべし

第十二條 入場券は金三錢とす 每一人必ず之を携ふべし

但し本會會員にして票章を佩ぶるものは入場券を要せず

附則

第一 本會は創立初會の事に付き種々の準備等あるを以て豫め出品製作の點數に付きては至急委員まで通知ありたし

第二 本會員出品製作は本會の主旨に基き恰も社會に發表の目的を有するものなれば今より開會に至る間各會員豫定製作の題目に付きては逐次通知ありたし 本會は大に社會に紹介の勞を取るべし

彫塑會の第一回展は翌三十三年五月一日より三十日まで上野公園五号館で開催され、石膏像を主に油土、木彫、鑄金、蠟型等による作品を含めて百十余点が展示された。本校塑造科設置後の教育成果を示すものであり、西洋彫刻技法による写生風の作品の新鮮さが大いに注目を集めた。出品者は彫刻科卒業生を中心に同科在校生と教官、鑄金科の卒業生および在校生等であつた。出品の概況は次のとおりである。

渡辺長男「労働者」「女髮結」「子守」「遭難」「眺め」、高村光太郎「觀月」、白井雨山「仮寝」、黒岩淡哉「茶摘」、青木外吉「老嫗」「老人」、山田政治「輪廻し」「たまや」「わらびがり」、本保義太郎「小供」「飼育」、山崎巳之助「少女」「小兒」、石井徳千代「婦人」「才藏」「漁夫」、武石弘三郎「肖像」、水谷鉄也「愛嬌娘」、細谷三郎「試味」、堀川鼎「菓子売」「重聴」「寒さ」、今戸

精司「傾杯」、藤田文蔵「不二印の獅子」、阿部光治「獅子」、前島交吉「避難」、新井豊「象」、津田信夫「狗児」、荒川嶺雲「少女」、香取秀次郎(秀真)「乾鮭」、桑原陶「馬上人物」、靱井阿山「駱駝」

なお、この展覧会の出品目録として明治三十三年五月に『彫塑生面』が発行された。新聞の中には『東京日々新聞』、『読売新聞』、『千代田日報』のように数日に亘って批評を連載したものもあり、中でも『東京日々新聞』には無名子、すなわち彫塑会を熱心に支援していた大村西崖が筆を執って絶賛に近い評を掲げた。左にその主要な部分(五回連載のうちの初回の分)を掲げる。

展覧會評判(一) 無名子

○昨今上野の五號館には、門竝三ツの展覧會が開會中で、おの／＼見所のあることだが、その中でも彫塑會が最も面白い。これは最肩でもなんでもない。誰が見てもみなさう思ふことだ。

○入口の幕を潛つてまづ見渡すところ、空色の背幕の前に蝦色の敷物の上に列べてある物は、みな石膏脱の彫塑物で、滿場白點々の有様は、先以て是迄日本の彫刻界に見た事のない新光景である。まして場中所々にサイ子リヤ遊蝶花などの美しき草花を飾つて、誠に清々しくしつらへたる、東洋に目新しきラオコーンの半身、ミロのヴェキナスなどの有名なる西洋古像の模型を列べたる、萬端斬新のやりかた、多年斯界の保守陳套にもどかしがつて居た無名子などは、誠に溜飲の下るやうな心地がした。

○社などへも來た案内狀の文句を見ても、また此會が先に出した

趣意書のやうなものを見ても、此會の連中が、如何ばかり進取の氣象に富み、自信の力を有して居るか解かることだが、まだ固より至極完全な成功をしたとは言れぬけれども、なるほど如何にもよく卒先して新生面を開かれた。初陣でこれだけにやれれば、まづ／＼結構と言はねばなるまい。

○會員の多くは現に美術學校の生徒で、主腦の渡邊長男といふは、去年あたり卒業した書生で、同校出身の先輩や教師連は一向與つて居らぬといふことだが、さういふ連中で獨立して堂々と展覧會を開くといふことはなかなか容易でなく、殊に物事の先鞭を着けるといふことは非常な困難を凌がねばならぬものだけに、さういふ寒措大(かんそくだい)がよく是だけの事を擧げて是だけの成功をしたのを見てはどうしても讚めずには置かれない。

○此會の出品の製作は、言はずと知れた西洋のやりかたの所謂の塑造で、作風は見た通り一般にまづ寫生風で、陶土かまたは西洋のプラステリナで捏ねて、それから石膏で型脱(たねが)にしたものだ。この技法、この作風は、岡倉時代の美術學校には夢にも無かつたもので、彼の有名な三十一年の紛擾後始めて課程に加へて、今では塑造科といふ一科さへ設けられたのだが、兎に角たが初めからこのかたつた滿二年にはかならぬ。それでただに進歩したとは實に驚く位のことだ。それにしても彫刻術の修業には此方法が最も善いことが解かる。然し二年間に是だけの技倆を啓發したのは、兎に角、功を長沼、藤田の二氏に歸せざるを得ずだ。

○此會の列品の作風を概して見た所で、誠に嬉しい事がある。その塑造といひ石膏脱(せつちゆうが)といひ、モデルを使つて寫生することゝい

ひ、何れもみな西洋風には違ひないのだが、題目、作風、趣味などを見ると少しも西洋臭い所がなく、全く日本の自然派の新機軸になつて居ることだ。方法は便利だから洋風を取るは勿論善いけれども、或一派の油繪家のやうに、主意といひ趣味といひ、長短俱に取つて、徹頭徹尾西洋心酔になつてしまつたのでは、全然洋風の模倣となり奴隸となるわけで、誠に情ないが、此會のやうな風で進んで行けば、我國は我國で別に頭を擧げることが出来る。これは諸生が理屈の解つて居る爲でもあらうが、長沼、藤田などが餘り注入的教育をやらないからでもあらうか。

(明治三十三年五月十九日『東京日々新聞』)

これ以後彫塑會は第二回展を翌三十四年四月十日から一ヶ月間、本校俱樂部で開き、第三回展を三十五年五月十七日より二十日間同所で開いたが、第四回展については記録がなく、解散した様子である。明治三十七年十一月発行の『東京美術学校校友会月報』第三巻第一号に

○東京美術學校彫刻科卒業生の研究會 彫塑會解散後、更に研究會を開き隔月集會して互に其作品の批評を爲し來れるが、會員も漸次増加の模様あるを以て、來春迄に其規模を擴張し、同時に彫塑展覽會を開き、從來の作品并に新作品を陳列して汎く公衆の縦覽に供する計畫なりと聞く

と記されているところをみれば、一旦解散した後研究会が起こり、

活動を続けていたことがわかる。この研究会が中心となつて明治三十八年には彫塑同窓會展が開催されるが、これについては後に述べる。